

有料老人ホームにおける事故発生時の報告等について

1 報告すべき事故の対象

報告すべき事故は、事業者が行うサービス提供中及びサービス提供に関連する入居者の事故とする。

2 報告すべき事故の種類

(1) 死亡事故及び負傷等（送迎、レクリエーション等での外出時における事故を含む）。

- ① 死亡事故については、事故死のほか、自殺を含むものとする。
- ② 負傷等については、骨折及び出血等により縫合した場合。
- ③ 誤薬・誤嚥等により病院等を受診した場合。

(2) その他サービス提供に関連して発生したと認められる事故等

- ① 震災、風水害及び火災等により、サービス提供に影響する場合。
- ② 食中毒、感染症及び結核については、保健所へ届出たもののうち、緊急性・重大性が高い場合。
- ③ 職員（従業者）による法令違反等（高齢者虐待、財産侵害）のうち、利用者処遇に影響がある場合。
- ④ その他報告が必要と判断されるもの。

(食中毒、感染症及び結核が発生した場合の届出等について)

1) 食中毒、感染症及び結核が発生した場合の届出等について、結核、感染症（「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に定める一類感染症、二類感染症、三類感染症並びに四類感染症）の患者が発生した場合は、診断した医師は速やかに所管の保健所へ届出を行うとともに、事業者は各市町（広域福祉課）へ報告する。

2) 事業者は、その他感染症（食中毒を含む。）で、患者が集団発生した場合は、速やかに各市町（広域福祉課）及び所管の保健所へ報告する。

3 報告すべき事故の範囲

(1) 事業者側の過失の有無は問わない。（入居者の自己過失による負傷等であっても、上記2に該当する場合は報告する。）

(2) 事故の程度については、入院及び医療機関にて、受診を要したもの（施設内の医療処置を含む。）とするが、それ以外においても家族等との間でトラブルが生じている若しくは、生じる可能性がある判断されるもの。

(3) 利用者等が病気等により死亡した場合であっても、死因等に疑義が生じる可能性のある場合（家族等と紛争が生じる可能性のある場合）は報告する。

(4) その他報告が必要と判断される場合。

4 報告の時期・手順

(1) 事業者は、事故等の発生後、速やかに各市町（広域福祉課）へ報告を行う。

なお、緊急性・重大性の高い事故については、直ちに各市町（広域福祉課）へ電話等により報告を行い、その後文書により報告を行う。

(2) 事業者は、事故の解決が長期に及ぶ場合は、必要に応じ適宜経過報告を行い、解決した時点で文書により結果等の報告を行う。

5 報告事項等

(1) 報告事項

報告事項は、下記のとおりとする。

① 報告者：法人名、事業所名（事業者名）、所在地、電話番号、管理者（責任者）氏名

② 入居者（対象者）：氏名、性別、生年月日、住所、電話番号、要介護度等

③ 事故等の概要：発生年月日、発生場所、事故等の種類、事故等の内容（発見時の内容及び経緯を記載）

④ 事故時の対応：対処の方法、治療等を行った医療機関名、治療等の内容（診断結果も含めて）

⑤ 事故後の対応：利用者の状態、家族等への報告・説明（家族等の氏名、利用者との続柄、住所、報告日時、対応状況、家族等の理解）、損害賠償に関する状況

⑥ 再発防止に向けての今後の対応：事故等が発生した要因分析、再発防止のための改善策、改善策の実施状況

⑦ その他の特記事項

(2) 報告様式

任意。上記（1）に掲げる報告事項が記載されていれば、事業者独自の様式で報告して差し支えないものとする。

6 その他事業者の対応

事業者は、事故発生の防止のための指針を整備し、事故が発生した場合に、当該事実が報告され、その分析を通じた改善策について、職員に周知徹底を図る体制を整備すること。

事業者は、発生した事故について原因を解明し、再発を防ぐための対策を講じるとともに、確認等を求められた場合は、再度報告を行う等、各市町（広域福祉課）の指示に従う。

7 報告先

事業者は、事故発生に対し、本取扱いに従い、各市町（広域福祉課）あて報告すること。

なお、事故の緊急性、重大性等を考慮し、適宜、当該入居者等の保険者である市町村（介護保険担当課）へも報告すること。

(参考)

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に定める一類感染症、二類感染症、三類感染症並びに四類感染症

- 一類感染症：エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病及びラッサ熱
- 二類感染症：急性灰白髄炎、結核、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る）及び鳥インフルエンザ（H5N1）
- 三類感染症：コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス及びパラチフス
- 四類感染症：E型肝炎、ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む）、A型肝炎、エキノコックス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、Q熱、狂犬病、コクシジオイデス症、サル痘、腎症候性出血熱（HFRS）、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、チクングニア熱、つつが虫病、デング熱、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ（H5N1を除く）、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群（HPS）、Bウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、マラリア、野兎病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レジオネラ症、レプトスピラ症及びロッキー山紅斑熱